

令和6年度 保育所における自己点検・自己評価

社会福祉法人睦福社会 中尾保育園

保育所保育指針に基づき、保育所の運営、保育内容等を下記の項目ごとに振り返りを行い、保育所の自己評価として記載しています。

また、今年度の反省を次年度に活かし、今後も保護者の皆様とともに子どもたちの健やかな成長のために、職員一同努めてまいります。

A：たいへんよい
B：よい
C：一部検討を要する
D：改善を要する

項目	内容	評価				意見・改善策
		A	B	C	D	
保育目標について	(1)保育目標の具現化に向け、乳幼児の実態を踏まえた重点目標を設定しているか。	○				保育方針に沿って、子どもの育ちを大切にしながら保育目標を進めています。全職員で保育方針、保育目標を共通理解にするように園内研修を行っています。生涯にわたる生きる力の基礎を培うためにも、より一層、一人ひとりの可能性を信じ、未来へとつなげていきたいです。
	(2)目標は、社会の要請や保護者の願いを反映しているか。	○				
	(3)目標は、全職員で検討し、かつ共通理解を図っているか。	○				
保育について	(1)指導計画は乳幼児の実態に即して作成しているか。	○				年間・月案・週案等を子どもの状況、成長に合わせて作成しています。子どもの興味や年齢毎の成長に合わせて、保育が充実する保育環境を定期的に見直し工夫をしています。
	(2)環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫しているか。	○				
行事について	(1)行事のねらいを計画や実施に十分生かしているか。		○			季節感や伝承文化を考えて行事計画を立て、ねらいに合わせて実践しています。子どもが様々なあそびや活動を通して主体的に学びあう行事内容を工夫しています。実施記録、評価、課題と改善を次の計画に活かす体制ができています。
	(2)乳幼児の活動範囲を明確にし、自主的・実践的な活動にしているか。		○			
	(3)計画・実施。評価・改善の体制をとっているか	○				

項目		内容	評価				意見・改善策
			A	B	C	D	
経営・組織	分掌・体制	(1)職務内容が明確で、協働できる体制になっているか。		○			年度途中に0歳児、4歳児担当者の変更がありましたが、安心できる環境にするため、必要な配置数を確保し支障ない保育提供に努めました。 職員の適材適所の配置は課題として次年度に改善してまいります。
		(2)職員の配置は適材・適所か。			○		
		(3)係や仕事の分担、割り当ては適切か。		○			
	運営	(1)職員相互がそれぞれ全体的立場を理解し、協力や助言を惜しむことなく施設運営に関わっているか。		○			子育て中の職員など職員間で家庭の状況等を理解しあい、連携や協力体制を取り合って運営しています。
	年齢別・クラス運営	(1)年齢別・クラス目標は、保育目標や重点目標に基づいて設定しているか。		○			保育目標に基づき、年齢やクラスごとに適切な目標を設定しています。
		(2)年齢別・クラス目標は、乳幼児の実態に即して設定しているか。		○			子どもたちの年齢やクラスの実態に応じた目標を立て、無理なく実践できるよう取り組んでいます。
		(3)同年齢及び異年齢児間の効果的な活動の充実を図っているか。	○				幼児クラスでは異年齢保育の「なかよし保育」を定期的に実施しています。また、リズム遊びや散歩など、日常的な活動の中でも異年齢児が自然に関わり合える機会を積極的に取り入れています。
		(4)評価、資料(諸記録)を集積しているか。	○				毎月の職員会議において評価を行い、記録の整理と活用に努めています。
	保健・安全指導	(1)避難訓練・交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施しているか。	○				事前に計画を立て、毎月の避難訓練を確実に実施しています。 交通安全指導については外部の専門講師を招いて
		(2)健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発を行っているか。		○			

		(3)乳幼児の安全確保のため、家庭・地域社会・関係機関等と連携を図っているか。	○				子どもたちにわかりやすく指導していただいた。 看護師は、保護者向け保健だよりを毎月発行して感染症対応などの情報の発信を行いました。 職員も、感染症、暑さ対策等、共通理解をしながら保育をおこなってきました。
○研究・研修	園内研修	(1)所内研修の計画、運営は適切か。	○				保育アドバイザーの指導のもと、計画、実施を行っています。
		(2)研修の成果を日常の保育に生かし、乳幼児の育ちに反映させているか。		○			職員が5つの分野別チームに分かれて、子どもの育ちを大切にしている日々の保育に活かせる内容を考えています。チーム毎に活動し年間通じて育ちを支えています。
		(3)研修の実践による乳幼児理解が深まりを見せているか。	○				園内研修での充実に向けて努力するとともに、研修の成果が日常の保育に活かせるよう研鑽を深めていきたいです。
	園外研修	(1)各種研究会、研修会、講習会での内容を所内に還元しているか。		○			外部研修、研究会に参加した場合は、学びを報告書にて周知しています。オンライン研修が増え、参加しやすい環境になっています。

項目	内容	評価				意見・改善策
		A	B	C	D	
ついて 情報に	(1)乳幼児や保護者に関する個人情報 を適正に取り扱っているか。		○			会議、園内研修にて個人情報取り扱いの基本を指導しています。常に情

		(2)各表簿は、適切な時間・方法で作成・処理しているか。		○			報の扱いに注意して適正な時間、方法で処理しています。
施設・設備		(1)施設内外・設備の安全点検を計画的に行っているか。	○				安全点検チェックリストを作成して、計画的に行っています。
		(2)掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用しているか。			○		1階・2階の掲示板を活用して様々な情報を周知していますが、より見やすく効果的に活用する工夫や場所の改善を図っています。
開かれた保育所づくり	施設間交流・連携	(1)他施設等との年間交流計画は、保育目標や課題にそったものになっているか。		○			今年度も旭区の幼保小教育交流事業に参加。 (年長児から小1の2年間の架け橋教育)
		(2)指導者どうしが、打ち合わせや事前研修、合同研修を行い、お互いの保育・教育に対する理解を深め、援助について共通理解を図っているか。			○		自園も管理職、5歳児の担任が参加。幼保小の私立公立間のつながりが広がっています。今後は、多数の職員も参加機会を作り、共通理解を図っていきます。
	家庭・地域社会との連携	(1)(乳)幼児の興味や関心に基づいて地域社会・その他の施設と交流しているか。		○			近隣の保育園と一緒に行事を行ったり、年齢に適した活動と一緒に交流することが出来ました。 地域の消防署、警察署、郵便局などの見学を通じて、身近な社会との繋がりを実感できる機会を増やしていきたい。 また、地域の高齢者施設との交流会を行い、世代を超えたふれあいの場を設けたい。

		(2)地域の行事に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れているか。			○		地域の方々を講師として招き、昔ながらの遊びや文化体験の場を設ける。保護者の方々にも参加を促し、地域行事を通じて保育園と地域がつながるきっかけを増やしたい。
--	--	-----------------------------------	--	--	---	--	---

項目		内容	評価				意見・改善策
			A	B	C	D	
開かれた保育所づくり	子育て支援の推進	(1)地域に住む子どもどうし、あるいは親子と一緒に遊ぶことができるような場の設定を行っているか。	○				園庭開放やホール開放は気楽に利用できる場の提供をしてきました。一時保育も、職員体制、保育室の確保が整ったので、できるだけ受け入れをしてきました。親子が参加できるイベントや講座を企画しているので、もっとSNSなどで広く告知していきたいです。親子が気軽に参加できる場づくりに力を入れていきたいです。区役所や関係機関との連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供しています。
		(2)「子育てについて」など、保護者を対象とした学習の機会を設定しているか。	○				
		(3)医療機関、児童相談所等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供しているか。		○			
	情報の発信	(1)保育所だより・クラス通信、ホームページ等で施設の情報を発信しているか。	○				園だよりやクラスだより、HPで保育園の情報をお知らせしました。子育てに役立つコラムやQ&Aなどのコンテンツを掲載し、保護者が楽しみながら情報を得られる場を作りたいです。

	外部評価	(1)第三者評価を導入し、施設運営に反映しているか。		○			今年、第三者評価を受審しました。受審結果を園だよりや掲示板で保護者に報告し運営に活かしていきます。
		(2)地域や保護者の意見を施設運営に反映しているか。		○			個人面談の際に保護者意見を聞いたり、行事等の際のアンケートの意見を参考にして運営に活かしていきます。

令和6年度の振り返り

今年度は「子どもたちが主体的に活動できる保育環境づくり」を意識し、遊びや活動の場面で子どもたちが自ら考え、選び、行動できるような環境づくりに取り組みました。

その一環として、年長児を対象に**新幹線の乗車体験**を実施しました。これは、子どもたちに社会の仕組みや、公共での場でのルールを学ぶ機会を提供するとともに、自立心や協調性を育むことを目的とした取り組みです。事前には、「改札機での切符の通し方」「新幹線のマナー」「どんな景色が見えるか」などを話し合い、子どもたちはワクワクした様子で準備を進めていました。当日は、車内で静かに過ごす工夫を考えたり、目的地に到着するまでの時間を楽しめるよう友だちや先生としりとりをしたりと、子どもたちなりに工夫する姿が見られました。この体験を通して、子どもたちは「どうしたらみんなが気持ちよく過ごせるか」を考えながら行動する姿勢が身につき、自信や達成感を感じている様子が伺えました。

一方で、子どもたちがさらに主体的に関われる環境づくりのためには、日常の遊びや活動の中で、もっと「考えるきっかけ」や「挑戦する機会」を増やしていくことが今後の課題であると感じています。来年度も引き続き、子どもたちが自ら考え行動する楽しさを感じられる体験を大切に、一人ひとりの成長を支えてまいります。

【園全体の評価】

- ・今年度より、インスタグラムを開設し、園の行事や日々の様子、食育の取り組み、子育て支援の様子などを、写真や短いコメントで発信することで、保護者の方々だけでなく、地域の方々にも園の取り組みを知っていただく機会が増えました。
- ・今年度も、地域の子育て支援（園庭開放、ホール開放、育児講座、給食体験等）も行い、今宿ケアプラザへと出むき子育てをする保護者を対象に相談、取り組みを行えました。
- ・地域の子育て支援の一環として、一時保育の充実に取り組みしました。利用者からは、「必要な時間にいつでも預けられて助かった」「柔軟な対応が心強かった」と声が多く寄せられ、保護者の安心感に繋がりました。

- ・指導監査を受けることで、新たな課題の気づきや、マニュアル等の見直しを行うことができた。
- ・今年度も、子どもの命を守る為の心肺蘇生研修を行った。実際に消防署の方に来ていただき、人形を使いながら、職員一人ひとり心肺蘇生の研修を行うことが出来ました。

【今後に向けて】

- ★ 職員の適材適所を見極め、適切に配置をすることで安心、安定した保育の提供に努めます。
- ★ 研修や勉強会を通じて、保育の質を高めるための知識や技術を今以上に共有して行きます。
- ★ 地域の人々との交流を通して、子どもたちがより多くの経験を積めるような活動を企画します。
- ★ 子どもたちの様子や保護者からいただいた情報は、職員連携を深め共有化に努めます。
- ★ 自身の自己評価を鑑みながら保育を行って行きます。
- ★ 保育の質の向上だけでなく、職員の働きやすさや、子どもたちの笑顔が増える環境づくりを目指します。